

博物館開館に向けた文化ゾーンの整備について



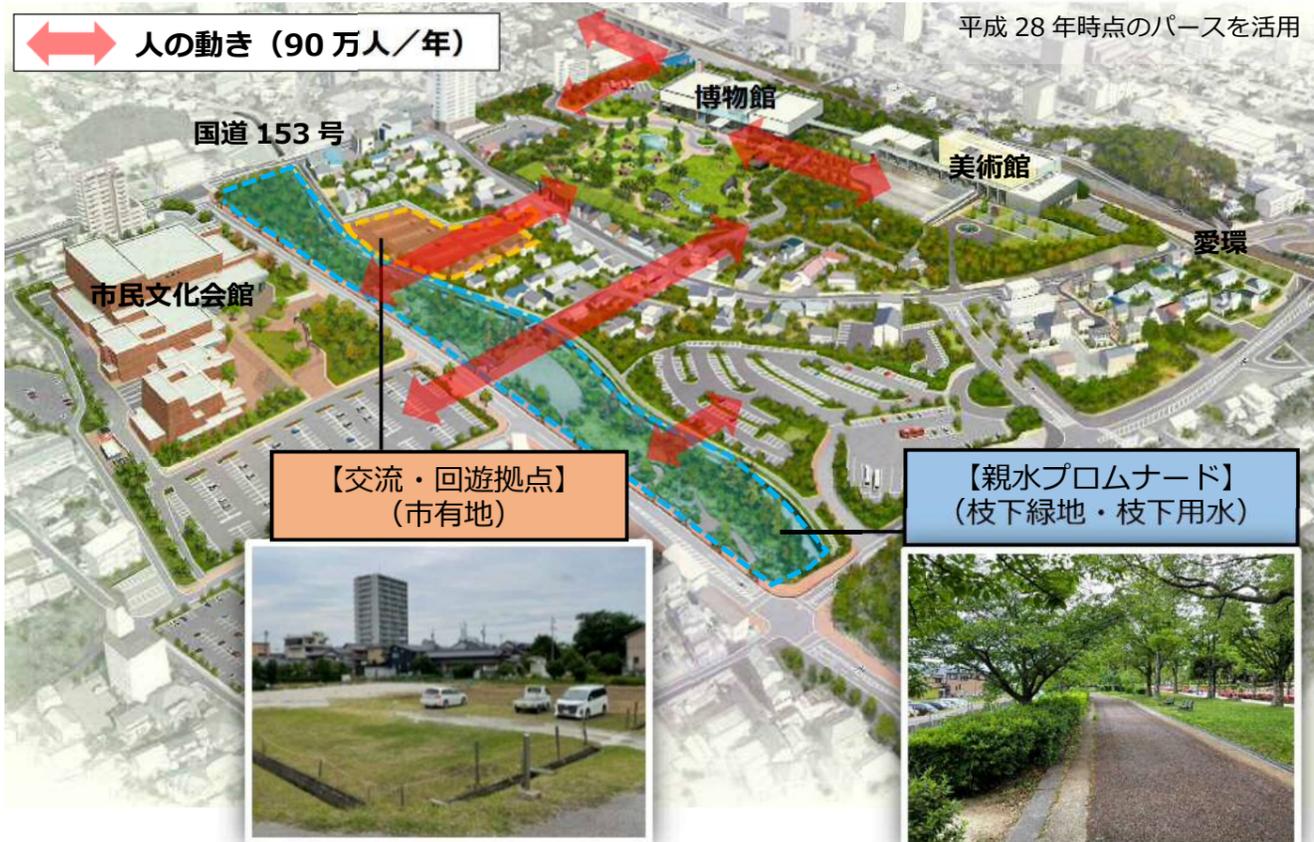
令和4年10月27日
文化芸術振興委員会【資料3】

1 文化ゾーンの将来像と土地利用構想

【将来像】コンセプト：緑に包まれた歴史・文化芸術の杜
豊田の歴史、文化、芸術、自然等の価値や魅力について、「気づき」、「共感」、「感動」をもたらす空間（3施設）と、その余韻を振りかえり、深化・定着できる落ち着いた居場所が創出されている。

【土地利用構想】

将来像の実現に向け、3施設に加え【交流・回遊拠点※】と【親水プロムナード】を整備
※駐車場活用を転換（都心全体の回遊性を高めるため、まちなか駐車場の利用を誘導）



2 博物館開館時にめざす姿 (令和6年1月末)

- (1) 博物館の意義が市民に浸透し、開館を待ち望んでいた人で賑わっている。
- (2) まちなかから文化ゾーンまで、ストレスなく楽しみながら来訪できる。
- (3) 文化ゾーン内で様々な交流（出会い）が生まれ、回遊を楽しめている。

3 整備を取り巻く状況変化

令和3年12月 文化ゾーン内を南北に流れる枝下用水の耐震対策工事の早期着手が決定
(令和5～8年度 主体：愛知県)

文化ゾーン内の安全安心な環境整備を最優先する。

「2 博物館開館時にめざす姿 (3)」は、耐震対策工事完了に合わせ実施

4 整備内容



(1) 耐震対策工事に合わせた整備 (写真①)

方針：用水を文化ゾーン内の資源の一つと捉え、景観・安全性・費用を考慮した整備を行う
※東西動線（現況○）を強化しつつ、景観や安全性を考慮したフェンス等を整備
(令和5年度着手予定)

(2) 【交流・回遊拠点】(市有地)の整備 (写真①)

方針：耐震対策工事に伴う利用（仮設事務所等）と交流広場（博物館関連イベント等）で利用
工事後は文化ゾーン内施設の「関係者駐車場」と「民間活力を生かした交流広場」として活用
ポイント：「民間活力を生かした交流広場」
トライアルサウンディング（民間事業者が事業を試行・実施し、後の理想的な展開等につなぐ）
により、様々な可能性や実現性を検証し、交流広場として理想的な活用法を探った上で整備

(3) 【親水プロムナード】(枝下緑地)の整備 (写真②)

方針：上記取組とあわせ、「常にきれいな空間」を演出
※具体的な内容、管理方法等は、耐震工事後の施工を見据え、今後検討